『チム、ジンジャーをたすける』

エドワード・アーディゾーニ／作
なかがわ　ちひろ／訳　福音館書店

E
アデ

船乗りになりたくてたまらない男の子チムは、仲良しのマクフィー船長にさそわれて、ことうボーイとして船に乗りこむことになりました。そこで友だちになったのは、ーとうボーイのジンジャーという男の子。なまけものでいたずらなジンジャーは、ある日、航海士の毛はえ薬を全部使ったせいで、かみの毛がのびるのが止まらなくなり、甲板の上のボートの中にかくれてしまいました。そんな時、船があらしにおそわれました。チムはジンジャーを助けるため、あらしの中、勇気を出して甲板に出ました。ところが、山のような大波にジンジャーがのみこまれて・・・。

小さいけれどゆうかんなチムが海の上で出会う、ハラハラドキドキ連続のぼうけん物語です。

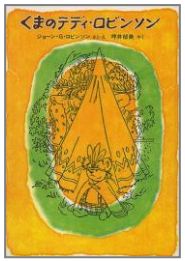
『こぎつねルーファスのぼうけん』

アリソン・アトリー／作
石井　桃子／訳　　岩波書店

GY
アト

みなしごのルーファスは、森で泣いているところをアナグマおくさんに見つけられて、アナグマ家にひきとられました。家族はアナグマさん夫婦と、子どものボニーとビルです。臭くて汚かったルーファスは、お風呂に入れられてすっかりきれいになりました。ボニーたちとも仲良くなり、楽しいくらしがはじまりました。ところが、ルーファスは、悪い大ギツネにつかまって小屋に連れて行かれ、メンドリといっしょに鳥箱に閉じ込められてしまいます。ルーファスは大ギツネが眠ったすきに箱を開けて、メンドリを助けて小屋から逃げ出しました。

好奇心旺盛なルーファスが、知恵と勇気で危険をかわし、大活躍するお話。ルーファスを見守るアナグマ夫婦が温かく、また、白鳥の冠や木の実のかぎのエピソードからは自然の不思議さも感じられます。



『くまのテディ・ロビンソン』

ジョーン・G・ロビンソン／作・絵
坪井　郁美／訳
福音館書店

GY
ロビ

テディ・ロビンソンは、小さな女の子デボラのお気に入りの、抱き心地のいいくまのぬいぐるみです。二人はとても仲良しで、どこへ行くのもいつも一緒。

ある時、デボラのいとこのフィリップがきて、みんなでインディアンごっこをすることになりました。テディ・ロビンソンも肩に赤い毛布をかけて、頭に鳥の羽をつけてもらい、インディアンの戦士になりました。二人が出かけている間、テディ・ロビンソンは、テントの見張りをすることになりましたが、テディ・ロビンソンが歌をうたっていると、うしろの草むらで草のすれあう音がして、ぴたぴた、足音が近づいてきました・・・。

デボラと仲良しのくまのぬいぐるみ、テディ・ロビンソンの目をとおして、子どもたちのどきどきわくわくする日々が描かれた楽しい物語です。

『ももいろのきりん』

中川　李枝子／作
中川　宗弥／絵　福音館書店

Y
ナカ

るるこはお母さんから、とても大きいももいろの紙をもらいました。るるこはのりとはさみとクレヨンを持ってきて、その大きなももいろの紙で、世界一きれいなキリンを作りました。できあがったキリンに「キリカ」と名前をつけて、大きな目と口をクレヨンで書くとキリカはしゃべりはじめます。大きすぎてるるこの部屋に入りきらなかったキリカは首を外に出して眠りました。朝になると、夜にふった雨でキリカの首の色がはげてしまいました。そこでキリカはるるこを乗せて遠くの山のてっぺんにあるクレヨンの木へと向かいます。キリカの首は元のきれいなももいろにもどせるのか…

紙とクレヨンでなんでも作れる、るるこの自由な想像力に触れることができる楽しいおはなしです。